

2018～2027年度の連系線の運用容量 (年間計画・長期計画) の一部変更について

2018年11月22日

- 今秋発生した北陸エリア内の大容量電源停止（スライド4参照）以降、北陸関西間連系線における北陸受電方向の空容量が少なくなっており、今冬の重負荷期には北陸エリアの市場分断が懸念される。
- このため、業務規程第126条に基づき、市場分断発生を回避するため、今冬の北陸フェンス運用容量の細分化を実施し、2018年度12月以降の運用容量を次スライドの通り変更する。なお、細分化については、従前は平日昼間とそれ以外の2断面であったものを、季節別の平日昼間とそれ以外に分けるものである。
- また、2019年度以降の運用容量については、2019年度2月に予定している運用容量検討会において算出する。

2018年度の運用容量変更点

変更前

[万kW]

平日昼間帯（4月～3月）	
北陸フェンス（北陸受電方向）	130
中部北陸間連系設備（北陸向）	30
北陸関西間連系線（北陸向）	130

平日昼間帯以外（4月～3月）	
北陸フェンス（北陸受電方向）	60
中部北陸間連系設備（北陸向）	30
北陸関西間連系線（北陸向）	60

5月の最過酷ケースで通年分の運用容量を算出

変更後

[万kW]



平日昼間帯（12月～3月）	
北陸フェンス（北陸受電方向）	160
中部北陸間連系設備（北陸向）	30
北陸関西間連系線（北陸向）	160

平日昼間帯以外（12月～3月）	
北陸フェンス（北陸受電方向）	90
中部北陸間連系設備（北陸向）	30
北陸関西間連系線（北陸向）	90

平日昼間帯については3月の最過酷ケース、平日昼間帯以外については年末年始の最過酷ケースで12月～3月の運用容量を算出

News Release



七尾大田火力発電所2号機における火災の発生について

2018年9月23日
北陸電力株式会社

昨日(9月22日)21時54分、七尾大田火力発電所2号機(定格出力:70万kW)が作業のための発電停止に向けて出力降下していたところ、保護装置[※]の動作により自動停止しました。

ただちに現場を確認したところ、タービン付近からの火災を発見したため、速やかに消防などへ通報するとともに、消火器にて初期消火にあたりました。22時10分に消防が到着し、消火活動を行い、本日(9月23日)2時15分に鎮火を確認しました。

この火災による負傷者および外部への影響はありません。
また火災の原因などについては現在調査中です。

地元の皆さまをはじめ関係の方々にはご心配・ご迷惑をおかけし、お詫び申し上げます。

以 上

※保護装置

機器の異常を検出し、安全に自動停止させる装置。